

第7回 “職場いじめ”へとエスカレート

吉田氏は、2001年1月21日、勤務終了後に大瀧被告、八ツ田被告をはじめ、JR東労組浦和電車区分会の役員らから、1時間半にわたって集団で吊し上げを受けました。吉田氏はそのショックで運転する自信を失い、翌日から暫く会社を休みました。

そのころ、分会は「個別総対話」を実施し、全組合員に吉田氏を追及する組織方針を徹底させていました。吉田氏は、浦和電車区の区長・副区長に相談しましたが、追及は激しくなる一方でした。そして、2月7日、再び、激しい吊し上げを受けたのです。

やりたい放題のJR東労組の横暴で職場は荒廃！

前号に続き、JR東労組が引き起こしてきた異常な事件を紹介します。

1999年8月 武蔵小金井電車区（中央線）事件

同区は、JR東労組の「平和共存否定」の運動が徹底されている職場でした。当時の東日本鉄産労（JR連合加盟）の分会長を、JR東労組の分会青年部が多数で取り囲み、職場で脅迫まがいの追及行動を行っていたのを区長が見咎め注意したところ、反対に「こないいい加減な区長のもとで働けるか！」と機関紙で攻撃するという事件が発生しました。

1999年8月 松戸駅（常磐線）事務室乱入事件

松戸駅で改札業務中の当時のグリーンユニオン（JR連合加盟）の組合員に、JR東労組の若手組合員と付き合ったことを理由に、他職場のJR東労組組合員約30名が押し掛け、事務室内まで乱入して集団で追及行動を行うという事件が発生しました。会社管理者はこれを制止できず、後日、被害者を出向発令して事態を収めました。

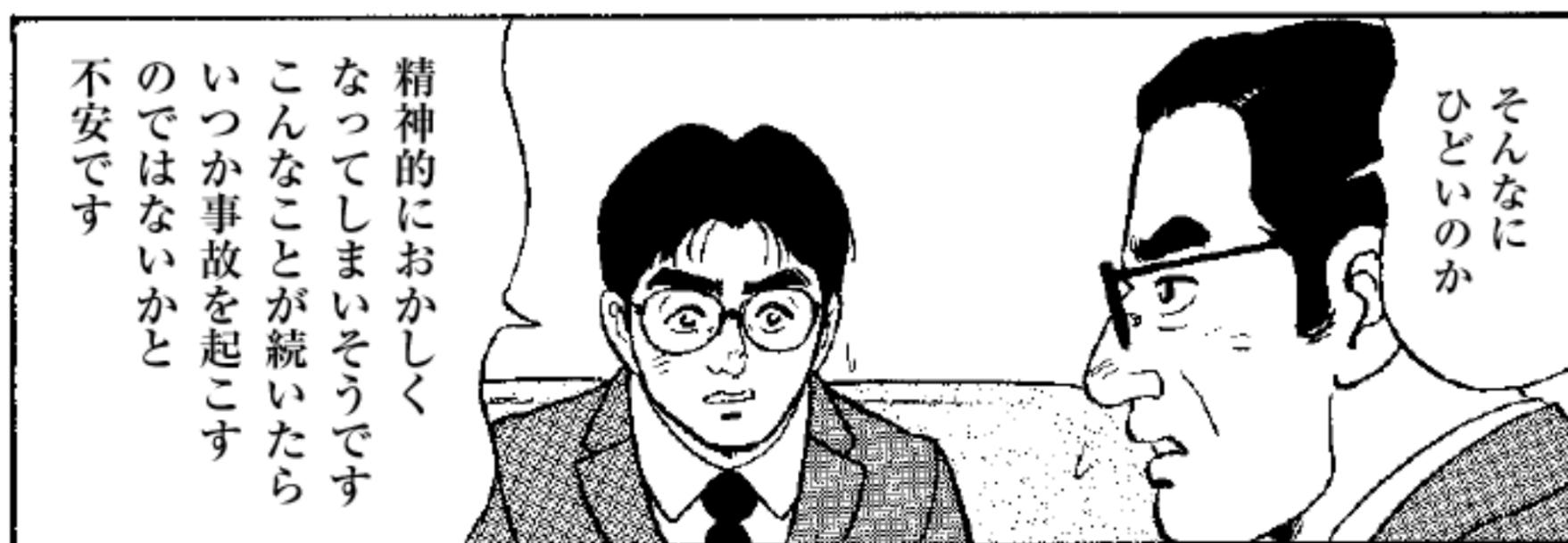
1999年10月 金町駅（常磐線）暴力事件

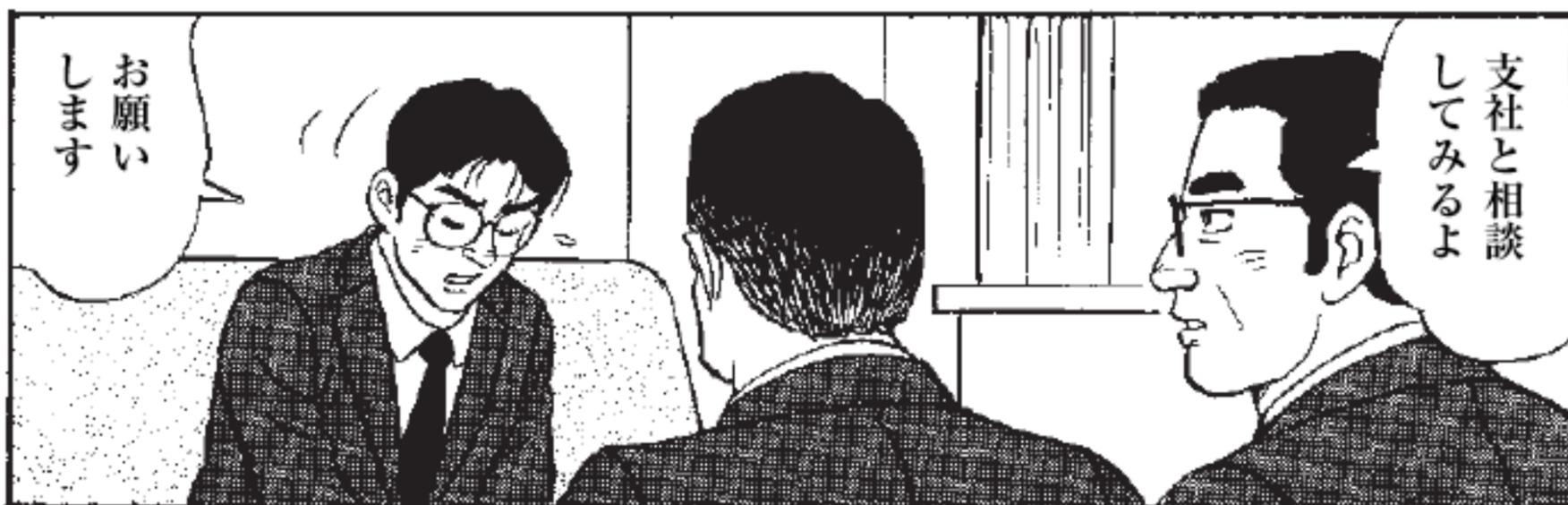
JR東労組組合員が、組合の脱退問題で激昂し、当時の東日本鉄産労（JR連合加盟）の分会長の胸を強打する事件が発生しました。分会長は被害届を出し、加害者に罰金の略式命令が下されました。

国鉄末期に行き過ぎた組合活動が職場荒廃を招いた反省から、JR各社は、職場規律の厳正化に努めてきたはずですが、上記のように、JR東労組が青年部を煽動し、若手が平気で先輩を恫喝して、管理職にも悪態をつくなど、職場秩序は荒れ放題でした。浦和電車区でも、事件当時、会社の「小集団活動」用の部屋である「ミーティングルーム」をJR東労組浦和電車区分会が占拠し、事実上の「分会事務所」として使用していました。

1999年4月～5月、JR東日本東京支社運輸車両部は、24項目の職場管理上の不適切な事象を指摘する文書を作成しました。この中で、「特に重点的な取り組みが必要と思われる以下の職場」として、松戸車掌区、池袋運転区、浦和電車区が挙げられています。会社は事件の1年以上前から職場荒廃の実態を把握していたことがわかります。（次号に続く）

【第6部】 “職場いじめ”へとエスカレート





この頃、分会では、
吉田氏の問題を
めぐって「個別総
対話」と称する、
役員と組合員が
一対一で話し合う
場が作られていた



言葉づかいには
十分に気を
つけるように

「辞めろ脱退
しろ」と追及
していくつもり
ですが
そういう言葉を
直接使えない
ところが難しい

もちろん、この場で
吉田氏を擁護
したり、組合の方針
に異議をはさむこと
などできないだろう

要するに、これは
吉田氏をスケープゴード
に仕立て上げ、組合への
忠誠を試す”踏絵”
であり、東労組特有の
組織対策なのである

2月7日

南浦和駅休憩室

入れよ！

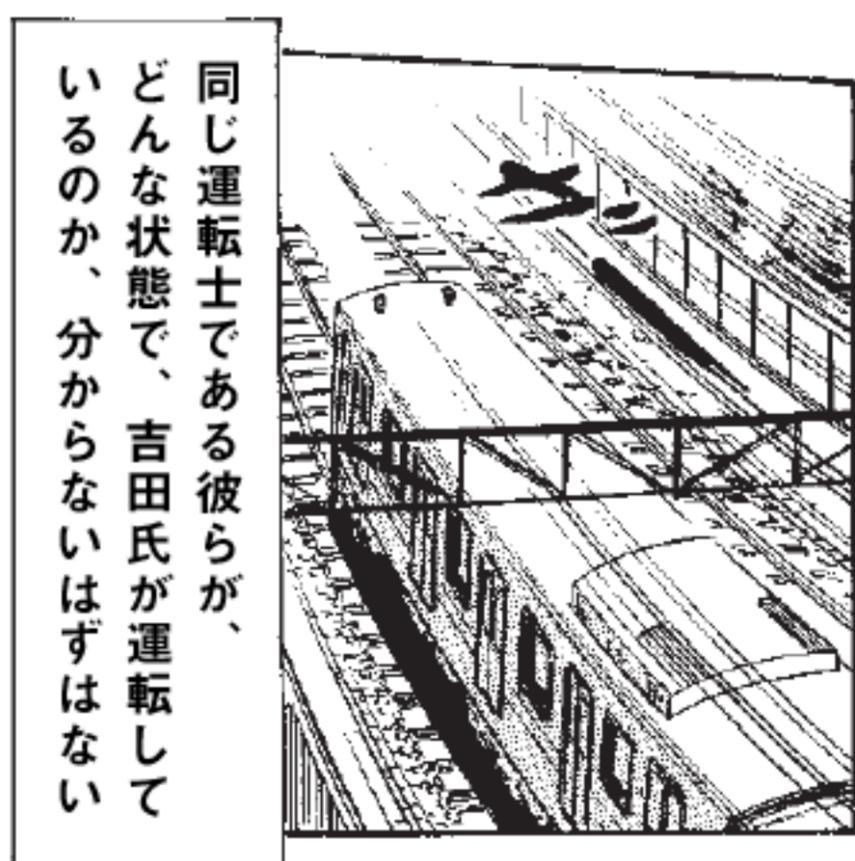
コソコソ
しゃがって
こいつ！

いい加減に
組合を脱退
したらどうなんだ

組合を
辞めるつもりは
ないです

お前なんかと
一緒に仕事は
できないと
皆も言っ
てるぞ

どうする
おい！





そういう
訳で

組合を脱退
しろと脅されて
いるんだ

本当か？
なぜなんだ！

毎日
攻め立て
られて
もう限界だよ

労働組合が
一人の組合員に
そんな仕打ちを
するなんて
信じられないが

組合を
脱退したら
どうなる？

会社にも
いられなくなる

ひどい話じゃ
ないの

誰かに
相談した
のか？

うん
区長に転勤を
頼んであるん
だけど……

せっかく運転士に
なれたって言うのに
どういふことなの

うーん

……